

# 田村薬品工業株式会社

## 2022年度 環境経営レポート

(対象期間:2022年1月~2022年12月)



五條工場



LPGタンク



YES,元気

未来にチャレンジする健康開発企業



作成日: 2023年1月13日  
更新日: 2023年4月13日

# 目 次

1. ごあいさつ	-----	1
2. 環境経営方針の策定	-----	1
3. 組織の概要	-----	2
4. 認証・登録の対象組織・活動	-----	2
5. 主な環境負荷の実績	-----	2
6. 環境負荷実績及び次年度目標	-----	3
7. 実施管理体制	-----	4
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	-----	5
9. 環境経営計画の取り組み結果とその 評価、次年度の内容<1>～<5>	-----	6～10
10. 緊急事態対応の試行・訓練	-----	11
11. 環境委員へのインタビュー	-----	12
12. 環境活動代表者による全体の評価と 見直し・指示の結果	-----	13
13. 環境経営活動の紹介(継続した活動)	-----	13

## <感謝状と記念品>



2017年に10年継続事業者表彰を受けました。

# 1. ごあいさつ

**医薬を基本に健康を創造し、提供する企業を目指す。**



代表取締役社長  
田村 大作

私たち田村薬品工業は、1934年の創業以来、「未来にチャレンジする健康開発企業」を事業目的とし、「医薬を基本に健康を創造し、提供する企業を目指そう」をモットーに取り組んで参りました。

これまで、独創的な製品開発を行い、医薬品ドリンク「イソビタン」、「カ精」をはじめとした健康維持・増進に貢献できる製品を数多くお届けすると共に、医薬品製造メーカーとして、GMP基準に則り、「より良い製品を、より安く提供していく」ために、創薬体制の刷新、受託事業の拡充を図り、お客様ニーズに迅速に対応できるシステムの構築に努めて参りました。

特にドリンク剤分野では最新設備を配置し、より信頼性の高い、安心してお使い頂ける薬品をお届けできる環境を整えております。更に事業の拡大に伴い2009年には本社を現在の大阪市中央区道修町に移転し、自身の活動や国内外のお客様との連携の強化を図って参りました。また、2016年4月に開発・技術センターを開業、2018年4月にはホシエヌ製薬を統合し、医療用医薬品分野への基礎づくりが整い、さらに2019年6月には和歌山県橋本市に紀ノ光台工場を竣工させ、田村薬品工業は医薬品製造メーカーとしての新たなステージに立つことができました。

弊社は奈良県の歴史的な地区に工場を持つ立地条件にあり、早くから環境との調和を人々の健康に奉仕する医薬品製造業の重要な柱の一つと位置づけ、経営に取り組んで参りました。これまでの取り組みの一端をご紹介します、弊社の環境保全に関する活動にご理解をいただければ幸いです。

# 2. 環境経営方針の策定

環境方針と SDGs

**田村薬品工業株式会社 環境に関する基本理念**

田村薬品工業株式会社は、人々の健康で豊かな生活に貢献するため、  
環境保全の推進に積極的に挑戦します。

**環境経営方針**

田村薬品工業株式会社は、人々の健康に貢献する生命関連企業として、すべての事業領域で企業活動と地球環境の調和が経営の基幹要素であることを強く認識し、主体的に行動します。

- 環境に関する法令、条例、協定などの遵守はもとより、自主基準を設定してその達成と環境負荷の低減（二酸化炭素排出量の削減、廃棄物の削減、水使用量の削減、化学物質の管理）に努めます。
- 環境経営活動に対してマネジメントシステムを構築し、組織的、継続的に取り組みます。
- 事業活動のすべての領域で、環境への影響を評価し、目的・目標を定めて継続的改善を図ります。
- 環境に配慮した製品および技術の提案、ならびにグリーン購入の推進に取り組みます。
- 継続的なリスク低減活動により、環境汚染などの事故の予防に努めるとともに、緊急時においては迅速かつ適切に対応し、被害の拡大防止に努めます。
- すべての従業員が環境に高い意識を持ち、自ら社会的責任を果たせるよう、計画的に教育・訓練に努めます。
- 環境経営活動に関する情報を開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。

2018年 4月 1日制定  
2022年 9月 1日改訂  
田村薬品工業株式会社  
常務取締役 生産本部本部長 **田村 康平**

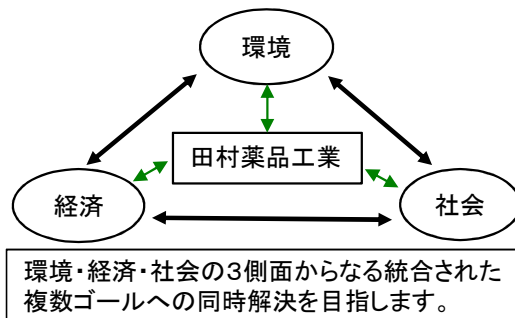
環境方針と SDGs

★基本理念・環境経営方針



環境掲示板や各会議室等に掲示

田村薬品工業と SDGs



### 3. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名  
 田村薬品工業株式会社  
 社長:代表取締役 田村 大作  
 環境活動代表者:専務取締役 田村 康平
- (2) 所在地  
 本社(大阪府) 〒541-0045 大阪市中央区道修町2-1-10 T・M・B道修町ビル  
 営業所(東京都) 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町4-3-9 華山ビル5階  
 本店工場(奈良県) 〒639-2295 奈良県御所市西寺田50  
 五條工場 〒637-0014 奈良県五條市住川町1380番地  
 開発・技術センター 〒635-0153 奈良県高市郡高取町下土佐495番地1  
 紀ノ光台工場 〒648-0007 和歌山県橋本市紀ノ光台3-2-1
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先  
 五條工場 環境管理責任者 工場長 山本 倫哉 TEL:0747-23-2533  
 担当者 総務部 課長 齊藤 宗宏 TEL:0747-23-2533
- (4) 事業内容  
 医療用及び一般用医薬品の製造
- (5) 五條工場における事業の規模  
 主要製品生産高 535t(トン)
- | 五條工場  |        |
|-------|--------|
| 従業員   | 116名   |
| 延べ床面積 | 9,513㎡ |
- (6) 事業年度 1月～12月(2018年度以降)

### 4. 認証・登録の対象組織・活動

- 登録組織名: 田村薬品工業株式会社
- 対象範囲: 五條工場  
 ※紀ノ光台工場については、必要に応じて対象範囲に含めるか検討する。
- 活動: 医療用及び一般用医薬品の製造

### 5. 主な環境負荷の実績

項目	単位	2020年度	2021年度 (基準年度)	2022年度 (レポート対象年度)
二酸化炭素総排出量[※]	t-CO <sub>2</sub>	3,424	3,404	3,214
廃棄物等排出量	t	83	76	67
廃棄物最終処分量	t	3	4	3
水道水使用量	m <sup>3</sup>	9,993	10,029	13,783
化学物質使用量	t	4	3	3

[※]電力の排出係数(単位:kg-CO<sub>2</sub>/kWh)

- ・2019～2020年度:0.522
- ・2021年度:0.558
- ・2022年度:0.518

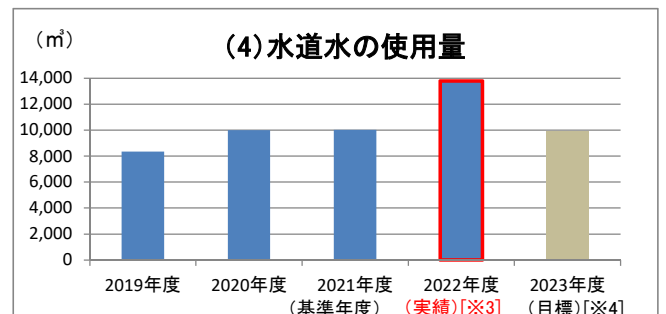
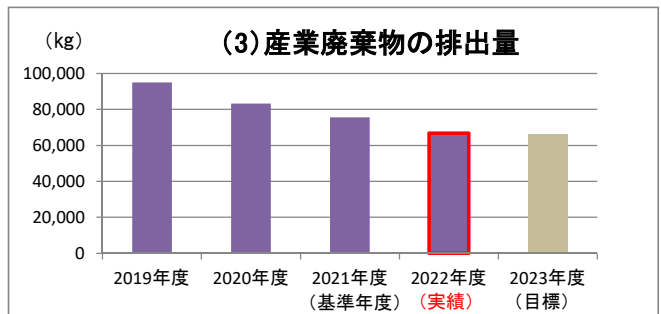
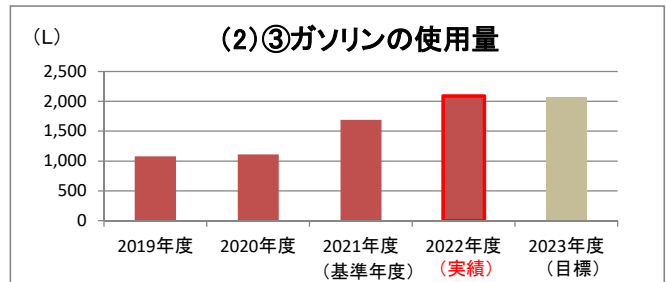
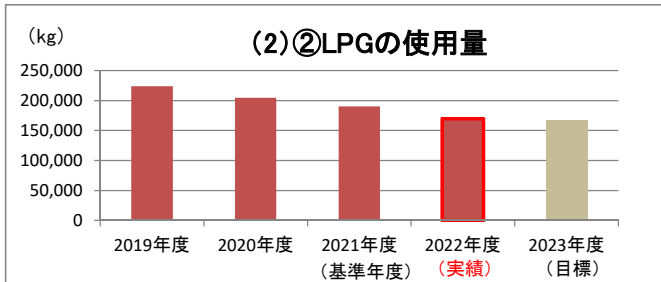
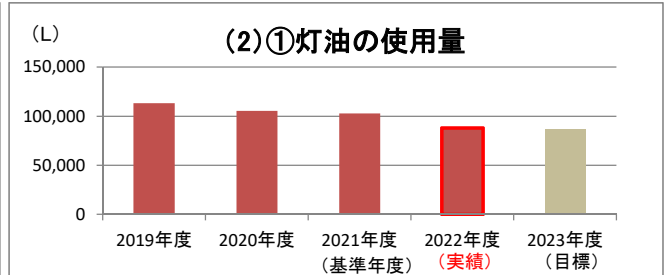
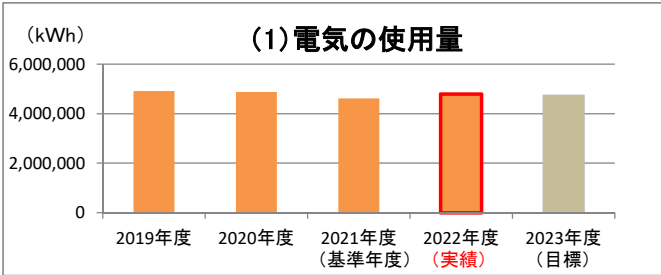
## 6. 環境負荷実績及び次年度目標

### 1. 各環境負荷の推移とグラフ

項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
		[※1]	[※1]	(基準年度)[※1]	(実績)[※1]	(目標)[※2]	
(1)電気の使用量	kWh	4,908,690	4,874,164	4,610,788	4,790,179	4,742,277	
	前年度比		99.3%	94.6%	103.9%	99.0%	
(2)化石燃料の使用量	①灯油	L	113,350	105,530	102,900	88,100	87,219
		前年度比		93.1%	97.5%	85.6%	99.0%
	②液化石油ガス(LPG)	kg	223,816	204,697	190,160	169,458	167,764
		前年度比		91.5%	92.9%	89.1%	99.0%
	③ガソリン	L	1,078	1,109	1,690	2,088	2,068
		前年度比		102.9%	152.4%	123.6%	99.0%
(3)産業廃棄物の排出量	kg	95,075	83,302	75,652	66,780	66,112	
	前年度比		87.6%	90.8%	88.3%	99.0%	
(4)水道水の使用量	m <sup>3</sup>	8,356	9,993	10,029	13,783	9,929	
	前年度比		119.6%	100.4%	137.4%	99.0%	

[※1]2019～2022年度数値は実績値。

[※2]2023年度目標は、2022年度実績値の1%削減値。水道水は2021年度実績値の1%削減値とする(2022年度は漏水が発生したため)。



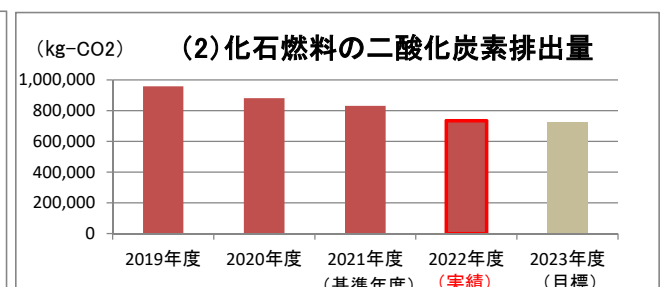
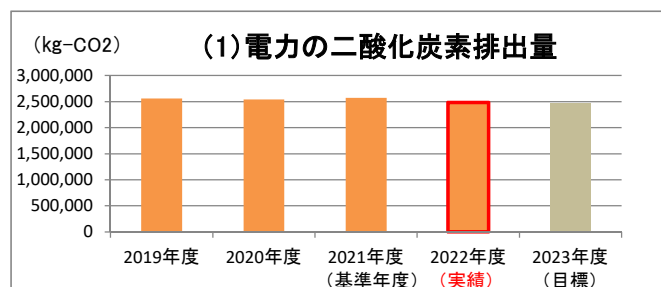
[※3]2022年度は地中埋設配管2カ所からの漏水により使用量が増加した。

[※4]2023年度目標は、2021年度実績値の1%削減値とする(2022年度は漏水が発生したため)。

### 2. 二酸化炭素排出量の推移とグラフ

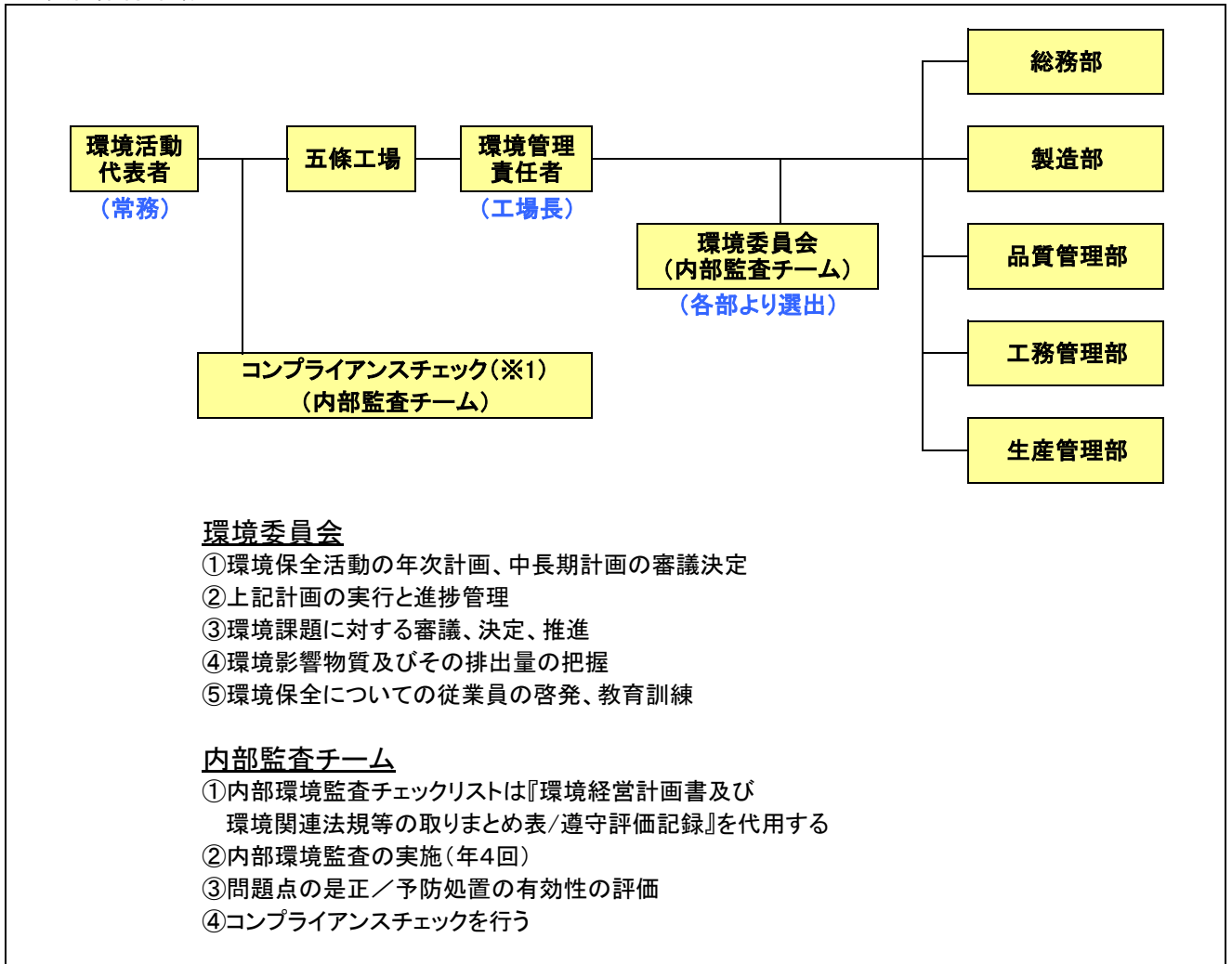
項目	年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
				(基準年度)	(実績)	(目標)
(1)電力の二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	2,562,336	2,544,314	2,572,820	2,481,313	2,456,500
	前年度比		99.3%	100.4%	96.4%	99.0%
	排出係数[※5]	kg-CO <sub>2</sub> /kWh	0.522	0.522	0.558	0.518
(2)化石燃料の二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	956,850	880,042	831,197	733,095	725,764
	前年度比		92.0%	86.9%	88.2%	99.0%
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO <sub>2</sub>	3,519,186	3,424,356	3,404,017	3,214,408
						3,182,264

[※5]2021年度より排出係数を毎年見直し。



## 7. 実施管理体制

### (1) 実施体制・組織図



(※1) 2019年度にコンプライアンスチェックを行う内部監査チームを発足した。

### (2) 役割・権限・責任一覧(※2)

対象者名	役割・権限・責任
環境活動代表者 (常務)	環境経営に関する統括責任。全体の取組状況の評価と全体的な見直し。 環境経営システムの構築・運用・維持に必要な資源の確保。実地体制・組織図の承認。等
環境管理責任者 (工場長)	環境経営システムの構築・運用・維持。環境目標の設定確認と活動計画書の承認・実施状況の評価。 環境負荷と環境への取り組みの自己チェック記録の承認・報告。等
総務部所属長 (環境事務局)	環境委員会とEA21推進の事務局。社内・外コミュニケーションの受付窓口。法規制動向の情報収集。 環境目標の達成状況。環境経営計画の実施状況報告。環境関連法規の遵守状況報告。等
環境担当者 (環境事務局)	環境委員会の運営及び実績報告。環境関連文書及び記録の保管・改版。 環境関連法規等の取りまとめ作成。取り組みに必要な必要な文書作成・改定。等
製造部所属長	自部門の環境経営計画の承認・報告・評価及び所属員に周知。環境に配慮した製造方法への改良。等
品質管理部所属長	自部門の環境経営計画の承認・報告・評価及び所属員に周知。環境経営システムの改善提案。等
工務管理部所属長	自部門の環境経営計画の承認・報告・評価及び所属員に周知。環境に配慮した生産技術の開発。等
生産管理部所属長	自部門の環境経営計画の承認・報告・評価及び所属員に周知。環境負荷の少ない原材料の購入。等
全次長・課長	自部門の環境経営計画の策定と所属員への周知。自部門の教育訓練の実施と結果報告。等
一般社員	自部門の環境活動計画への取組。EA21環境経営システムの改善提案。緊急事態・教育訓練への参加。等

(※2) 役割・権限・責任一覧表より一部抜粋

## 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

五條工場に適用される環境関連法規は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	産業廃棄物(金属類・廃プラ類・廃油・廃ガラス・汚泥・水銀使用製品産業廃棄物など)、特別管理産業廃棄物(廃酸・廃アルコールなど)
家電リサイクル法	冷蔵庫、洗濯機、ブラウン管テレビ、エアコン、プラズマテレビ、衣類乾燥機
自動車リサイクル法	社有車
フロン排出抑制法	チラー、業務用冷凍冷蔵庫・業務用エアコン等
省エネ法	使用エネルギーは1500kL以上(原油換算)につき特定事業所
騒音規制法	空気圧縮機、送風機
振動規制法	空気圧縮機
悪臭防止法	イソブタノール・酢酸エチル・アンモニア・トルエン・キシレン
下水道法	排水処理施設設置
五條市下水道条例	
公害防止協定	廃棄物、工場排水、空気圧縮機、送風機、イソブタノール
毒・劇物取締法	塩酸、苛性ソーダ、ヒドラジン他60物質
PRTR法	灯油中の含有キシレン及び1,2,4-トリメチルベンゼン、アセトアミノフェン
消防法	危険物製造所・危険物地下タンク貯蔵所・危険物屋内貯蔵所・少量危険物貯蔵取扱所・消防設備の設置
高圧ガス保安法	チラー、ガスボンベ、LPGバルクタンク
工場立地法	敷地面積9,000㎡以上または建築面積3,000㎡以上
電波法	高周波利用設備の設置及び変更届出
小型家電リサイクル法	小型電子機器 対象26品目(プリンタ、掃除機、パソコン等)

★環境関連法規等の遵守状況の評価結果、環境関連法規等は遵守されていました。

★関係当局よりの違反、訴訟等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

★『電波法』を2020年度から遵守状況確認表に追記しました。

★『小型家電リサイクル法』を2022年度から遵守状況確認表に追記しました。

## 9. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の内容 <1> (電力)

### <1>電力の削減

(1)数値目標	評価	取り組み結果
①実績数値(2021年度実績比)	×	実質使用量が3.9%増加し、目標は未達成となった。
②目標数値(2021年度使用量1%以上削減)	×	実質使用量1%削減目標が4.9%増加し、目標は未達成となった。
③原単位目標(原単位2021年度比)	◎	原単位で約14.0%減少し、達成した。

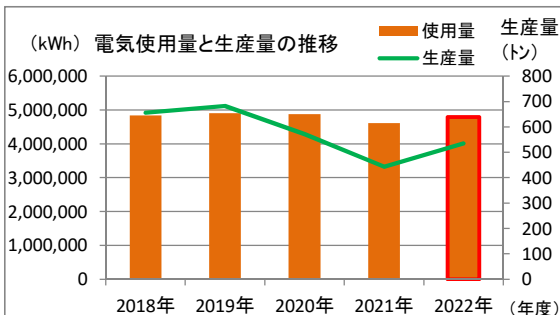
【実績・目標数値評価】:◎1%以上削減、○1%未満削減、△1%未満増加、×1%以上増加

【原単位目標評価】:○数値達成、×数値未達成 <原単位は生産量1トン当たりの電気使用量>

(2)取り組み結果とその評価	評価	取り組み結果
<b>①照明の消灯</b>		
・不使用作業室	○	昼休憩40分間の作業室消灯、時間外の室内半分や通路消灯などを実施した。
・作業終了後の通路	○	不要時の通路消灯や人感センサー作動による節電を実施した。
・照明時間削減(ノー残業日の導入推奨)	○	部内や個人でノー残業日を設定することで、照明やPC電力削減に努めた。
<b>②空調稼働時間の削減</b>		
・デマンド監視システムの有効活用	◎	デマンド監視作動時は、消費量が大きい食堂空調を停止させ超過を防いだ。
・消し忘れ防止(最終点検の強化)	◎	終了点検記録で空調や照明の消し忘れ確認を強化した。
<b>③新規設備導入時、省エネタイプ使用</b>		
・設備、エアコン等購入・買い替え時	○	3階事務所等の既存エアコン8台を自動停止設定に変更した。
<b>④蛍光灯を長寿命タイプに更新</b>		
・玉切れ時、随時交換	◎	屋内蛍光灯玉切れ交換時は長寿命タイプへ随時変更した。
<b>⑤設備機器の定期的なフィルター清掃</b>		
・エアコンや設備機器の計画的清掃の実施	◎	長期休暇前に空調や機器のフィルター清掃を行った。
<b>【製造部】</b>		
・設備保全による安定稼働(チョコ停削減)	○	停止時間などをデータ取りし、次年度はデータを参考に停止率削減に取り組む。
・設備稼働時間の削減	◎	包装資材の交換時期と休憩を合わせ、機械稼働時間削減に取り組んだ。
<b>【工務管理部】</b>		
・設備保全による各部安定稼働の支援	◎	不具合時のメンテナンスや、設備保全、教育訓練を実施した。
・各部門の検討事項の支援	◎	空調や機械室フィルター清掃の支援を行い、効率改善と設備保全となった。
<b>【品質管理部】</b>		
・空調効率の改善	○	事務所天井の空調室内機に、余っていたシーリングファンを設置した。
・ラボエラー削減の改善	○	部内研修でミスを防ぎ、やり直しなどによる電気使用量削減に努めた。
<b>【生産管理部】</b>		
・食堂窓の遮熱フィルム検討	△	検討を行ったが、費用対効果等で実施には至らず。
・空調設備室外機カバー装着	○	前年度実施できなかった検討事項。次年度も引き続き行う。
<b>【総務部】&lt;環境事務局&gt;</b>		
・総務室横ロビーの照明点灯時間削減	◎	ロビー未使用時は照明を半分消灯した。
・導入時に教育訓練実施	◎	4月より新入社員にこまめに電気を消すよう、取り組みの紹介を行った。

【評価】:◎実施し成果有り、○実施した、△検討した、×実施できなかった

### (3)過去5年間の電気使用量と生産量の推移、その評価



年度	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
使用量	4,836,617	4,908,690	4,874,164	4,610,788	4,790,179
前年増減	-	+72,073	-34,526	-263,376	+179,391
増減率(%)	-	1.5	-0.7	-5.4	+3.9
原単位	+16.2	-2.4	+18.6	+21.9	-14.0

使用量は前年度実績比で3.9%増加し、1%削減目標も未達成となった。前年度より使用量が増加した月が8カ月あった。増加要因として、夏場の外気温が高く、空調稼働率が増えた点や生産高が約1.2倍になり機械稼働時間が増えたと考えられる。生産高が約20.8%増加したが、使用量は3.9%しか増加しておらず、一定の取り組み成果があったと考える。

### (4)取り組み紹介

①デマンド監視システムの活用  
(空調稼働時間の削減)



システムと連動しているアラートが鳴動すると、使用量の大きい食堂空調を停止させた。契約電力の超過を防ぐことができた。

②食堂空調フィルターの清掃  
(空調効率低下の防止)



食堂の空調フィルターにホコリが多く付着していた。空調効率を改善できるように、稼働が多くなる夏前の6月下旬に実施。

③空調室外機に遮熱材使用  
(空調効率の改善)



廃材のシートを活用し、一部室外機の上に貼った。次年度も順次取り組む予定。



### (5)次年度の取り組み内容

今までの取り組みを継続するとともに、各部門の安定作業による作り直しや作業ロス、チョコ停止を削減し不要電力防止に努める。また、工程改善や技術提案による作業効率化で設備稼働時間短縮を目指す。



## 9. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の内容<2>（化石燃料）

### <2>化石燃料の削減

(1)数値目標	評価	取り組み結果
①実績数値(2021年度実績比)	◎	実質使用量が11.8%減少し、目標を達成した。
②目標数値(2021年度排出量1%以上削減)	◎	実質使用量1%削減目標が10.9%減少し、目標を達成した。
③原単位目標(原単位2021年度比)	◎	原単位で約27%減少し、達成した。

【実績・目標数値評価】：◎1%以上削減、○1%未満削減、△1%未満増加、×1%以上増加

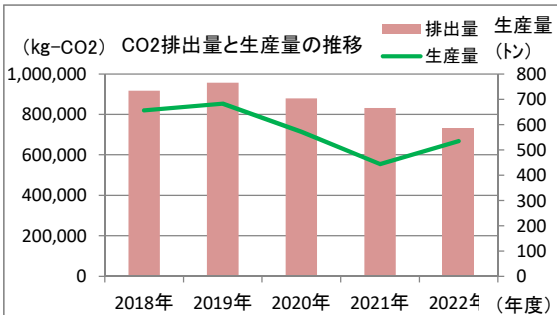
【原単位目標評価】：○数値達成、×数値未達成 <原単位は生産量1トン当たりのCO2排出量>

(2)取り組み結果とその評価	評価	取り組み結果
①灯油使用量削減		
・必要時のみ稼働	◎	必要時のみ稼働に努めた。
②ガソリンの使用量削減		
・出張時は公共交通機関利用を推奨	◎	出張は少なかったが、可能な限り公共交通機関での移動に努めた。
・送迎や工場間移動はハイブリッド車を推奨	◎	業務終了後は従業員数が分散されるため、ハイブリッド車を使用した。
③使用量の適正管理(灯油・LPG・ガソリン)		
・日常及び月間使用量の把握	○	設備保全と漏洩・設備異常等の早期発見に努めた。
【製造部】		
・灯油使用時の直前にボイラーを稼働	◎	作業の無い週末等、不要な場合に都度停止して灯油使用量を大幅に削減した。
【工務管理部】		
・設備保全による各部安定稼働の支援	◎	不具合時のメンテナンスや、設備改善、教育訓練を実施した。
・各部門の検討事項の支援	◎	ボイラー配管に保温材を装着し、エネルギーの効率化を目指した。
【品質管理部】		
・LPGポンベの適正管理	◎	試験で使用するLPGポンベの適正管理と安全使用に努めた。
【生産管理部】		
・定期的な社内研修	◎	生産管理の内容だけでなく、業務改善や作業効率の研修を行った。
【総務部】<環境事務局>		
・社有車ガソリンの法人向けカード活用	◎	事務手続き簡略化による作業効率向上とガソリン購入金額削減となった。

【評価】：◎実施し成果有り、○実施した、△検討した、×実施できなかった

### (3)過去5年間のCO2排出量と生産量の推移、その評価

(単位: kg-CO2)

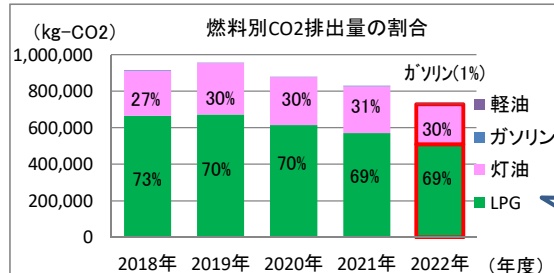


年度	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
排出量	917,018	956,849	880,041	831,196	733,095
前年増減	—	+39,831	-76,808	-48,845	-98,101
増減率(%)	—	+4.3	-8.0	-5.6	-11.8
原単位	+10.3	+0.4	+9.9	+21.7	-27.0

排出量は前年度実績比で11.8%減少し、1%削減目標も達成した。使用量で灯油が約14.4%削減、購入量で17.6%削減したことから製造部門の取り組みの成果が出ている。LPG(液化石油ガス)の使用量が前年より10ヶ月で減少し約10.9%削減した。一方、ガソリン使用量が約24%増加したことは、交通機関利用の従業員が増えて送迎回数も増えたことが要因と思われる。

### (4)項目別過去5年間の排出量とその評価

(単位: kg-CO2)



年度	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
LPG	665,364	671,886	614,493	570,852	508,708
灯油	247,897	282,460	262,973	256,420	219,539
ガソリン	3,757	2,503	2,575	3,924	4,849
軽油	0	0	0	0	0
原単位	+10.3	+0.4	+9.9	+21.7	-27.0

化石燃料からの排出量のうち、毎年LPGが約7割を占める。残り約3割は灯油で、排出量の大部分がこの2つとなり、いかにこの使用量を削減できるかが、今後の取り組み課題となる。

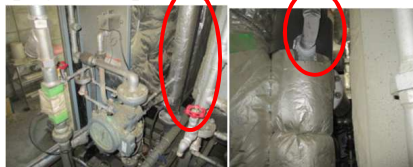
### (5)取り組み紹介

①ボイラー稼働時間短縮と温度設定変更  
【製造部】



直前にボイラーを稼働させ、不要な場合は都度停止させる取り組みに加え、給気温度設定を10℃下げた。灯油使用量と経費の大幅な削減となった。

②ボイラー配管に保温材装着  
【工務管理部】



蒸気ボイラー配管の一部に保温材を装着することで、熱効率の低下を防止し、LPG削減に取り組んだ。

③設備日常点検  
【製造部】



自主日常点検や業者月次点検による保全を実施。安定稼働と異常早期発見に努めている。



### (6)次年度の取り組み内容

二酸化炭素の排出量の約7割がLPGが占め、省エネ法にも該当することから引き続き設備保全に取り組む。また、灯油削減として使用直前のボイラー稼働と設備給気温度設定を10℃低くする取り組みを継続する。

## 9. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の内容<3>（産業廃棄物）

### <3>産業廃棄物の削減

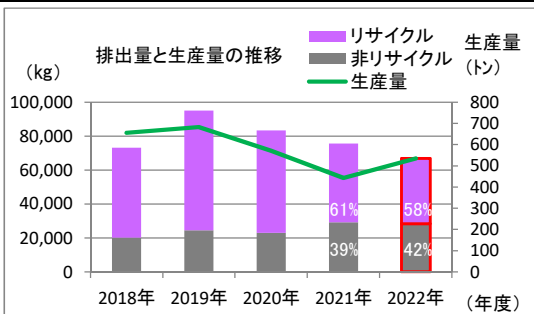
(1)数値目標	評価	取り組み結果
①実績数値(2021年度実績比)	◎	実質使用量が11.7%減少し、目標を達成した。
②目標数値(2021年度排出量1%以上削減)	◎	実質使用量1%削減目標が10.8%減少し、目標を達成した。
③原単位目標(原単位2021年度比)	◎	原単位で約27%減少し、達成した。

【実績・目標数値評価】：◎1%以上削減、○1%未満削減、△1%未満増加、×1%以上増加  
 【原単位目標評価】：○数値達成、×数値未達成 <原単位は生産量1トン当たりの産業廃棄物排出量>

(2)取り組み結果とその評価	評価	取り組み結果
<b>①分別の徹底</b>		
・有価物への分別	◎	再生紙、廃オイル、アルミ、ステンレス等に分別し有価買取を推奨した。
<b>②コピーの両面印刷や裏紙の使用</b>		
・両面や縮小・分割による印刷枚数の削減	○	回覧や掲示資料を両面と分割を合わせることで削減に努めた。
・不用裏紙使用を推奨し、購入量を削減	◎	事務消耗品購入用紙や環境資料などで裏紙使用を推奨した。
<b>③事務消耗品の使い直し</b>		
・部署内外で消耗品を使い直し再利用	○	保管場所を決めて使い直し、クリアファイルやクリップ等の購入削減に努めた。
<b>④消耗品購入の削減</b>		
・高耐久性・高寿命製品の使用	○	Vベルト、蛍光灯等の交換時、高耐久性・高寿命製品へ変更し購入回数を削減。
<b>【製造部】</b>		
・ステンレス等保管と有価引取り推奨	◎	産業廃棄物として処分せずに保管し、有価買取を行った。
・リサイクルの有価買取分別	◎	古紙や金属類に加え、プラを有価買取できるように分別に取り組んだ。
<b>【工務管理部】</b>		
・設備保全による各部安定稼働の支援	◎	不具合時のメンテナンスや、設備保守、教育訓練を実施した。
・各部門の検討事項の支援	◎	包装機械改良時の支援と改良後のオペレーターへの教育訓練を実施。
<b>【品質管理部】</b>		
・ガロン瓶の無償引取り推奨	◎	試薬の空き瓶を業者へ回収依頼することで、廃棄物削減となった。
・廃試薬リストの簡素化と業務の効率化	◎	廃試薬リストを廃止し、既存様式を活用することで業務簡素化となった。
<b>【生産管理部】</b>		
・プラ再資源化検討と取り組み	◎	リサイクルプラを有価買取取りできるよう検討し、下期から業者回収を依頼。
<b>【総務部】&lt;環境事務局&gt;</b>		
・新規産廃業者との契約に向けた準備	◎	廃棄物の新規業者と契約締結に向け、業者と打合せをした。
・環境経営活動の周知と紹介の活性化	◎	掲示板の活用と、新入社員雇入れ時に分別方法を研修した。

【評価】：◎実施し成果有り、○実施した、△検討した、×実施できなかった

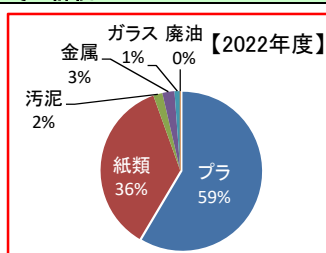
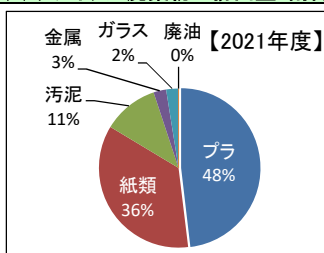
### (3)過去5年間の産業廃棄物排出量と生産量の推移、その評価



	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
排出量	73,216	95,075	83,302	75,652	66,780
前年増減	-	+21,859	-11,773	-7,650	-8,872
増減率(%)	-	+29.9	-12.4	-9.2	-11.7

排出量は前年度実績比で11.7%減少し、1%削減目標も達成した。要因として生産終了製品による廃資材・原料等や、生産量増加があったものの、排水処理の汚泥排出量が4.5トン(約86%)減少したことが要因と考えられる。取り組みとして、包装資材の端材ロス削減や今年度の目標であった排出量の比率が高いリサイクルプラスチックを有価買取可能な業者と検討を重ね、約2%に当たる0.5トンを有価買取できた。

### (4)リサイクル廃棄物の排出量・割合とその評価



リサイクル廃棄物のうち、汚泥量が激減したことで、プラスチックの割合が6割と比率が大きくなった。、廃棄ロスが出ないように、工程改善などに努めた。

種類(kg)	2021年	2022年
プラスチック	22,291	22,503
紙類	16,478	13,833
汚泥	5,220	720
金属	1,190	962
ガラス	1,172	430
廃油	6	0

プラは1%増加したが、紙類16%、汚泥約86%、金属19%、ガラス63%それぞれ減少した。

### (5)取り組み紹介

#### ①プラの再資源化検討 【製造部・生産管理部】



分別したリサイクルプラスチックは、2021年までは全て固形燃料としてリサイクルされていた。2022年度は再資源化できる業者と連携してプラスチックを更に判別し、ゴミ袋などへ再資源化した。

#### ②廃棄ガラスの削減 【品質管理部】



試薬の入ったガロン瓶を業者へ引き取りを依頼することで、ガラスの廃棄物削減につながった。

#### ③包装資材の削減と生産性の向上 【品質管理部】



包装資材のシート交換時に機械を停止させるため端材が出る。交換時期を予測し、休憩時間を兼ねることで機械停止回数と端材排出量の削減を検討。一定の効果が出た。



### (6)次年度の取り組み内容

製品の作り直しや作業のやり直しが産業廃棄物増加に直結するため、安定生産と確実な作業に努める。産業廃棄物でリサイクルが約6割を占め、その内の約6割がプラスチックである。排出量が多いプラスチックを削減できるよう工程改善による排出ロスに引き続き取り組む。また、リサイクルプラスチックを固形燃料から製品として再生するマテリアルリサイクルの活動を推進する。

## 9. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の内容<④> (水道水)

### <4>水道水の削減

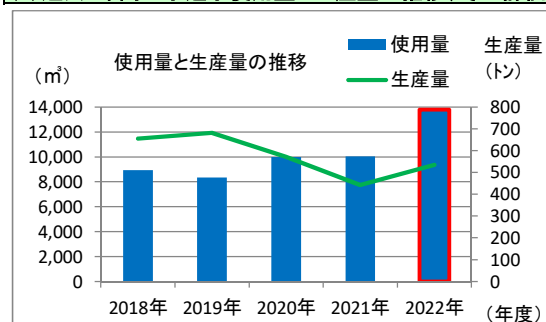
(1)数値目標	評価	取り組み結果
①実績数値(2021年度実績比)	×	実質使用量が37.4%増加し、目標はやや未達成となった。
②目標数値(2021年度排出量1%以上削減)	×	実質使用量1%削減目標も38.8%増加し、目標は未達成となった。
③原単位目標(原単位2021年度比)	×	原単位で約14%増加し、未達成となった。

【実績・目標数値評価】:◎1%以上削減、○1%未満削減、△1%未満増加、×1%以上増加  
 【原単位目標評価】:○数値達成、×数値未達成 <原単位は生産量1トン当たりの水道水使用量>

(2)取り組み結果とその評価	評価	取り組み結果
①節水の徹底		
・必要時のみ使用	◎	設備や器具洗浄時など、必要時のみ使用するよう努めた。
②使用量の適正管理(市水・精製水・排水量)		
・日常及び月間使用量の把握	◎	設備保全と漏水・配管水漏れを早期に発見できるよう日常点検に努めた。
・蛇口忘れ防止(最終点検の強化)	○	終了点検を実施するよう、啓発を行った。
【製造部】		
・蛇口忘れ防止(最終点検の強化)	○	終了点検を実施し、閉め忘れ防止に努めた。
【工務管理部】		
・漏水調査・修繕工事の支援	◎	2カ所の漏水工事に立会い、修繕の支援を行った。
【品質管理部】		
・自社調製液の削減	◎	自社で調製する液を見直し、洗浄水削減に努めた。
【生産管理部】		
・漏水調査・修繕工事の立会い	◎	2カ所の漏水工事の手配を行い、漏水の対応を行った。
【総務部】<環境事務局>		
・環境活動の周知と取り組み紹介の活性化	◎	新入社員雇入れ時や全体環境講習で節水の取り組み紹介と啓発を行った。

【評価】:◎実施し成果有り、○実施した、△検討した、×実施できなかった

### (3)過去5年間の水道水使用量と生産量の推移、その評価



年度	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
使用量	8,935	8,356	9,993	10,029	13,783
前年増減	-	-579	+1,637	+36	+3,754
増減率(%)	-	-6.5	+19.6	+0.4	+37.4

使用量は前年度実績比で37.4%増加し、また1%削減目標も38.8%増加し未達成となった。2022年度に入り、水道水量と排水量の差が大きくなり、漏水調査と工事を9月に実施。また12月に別場所でも漏水工事を行った。漏水場所の調査や特定、また工事に期間を要し、年間を通じて水道水使用量が増大した。しかし、日々のメーター確認や月々の使用量推移を注視したことで、漏水と判断でき、漏水によるムダを阻止できた。

### (5)取り組み紹介

#### ①メーターの日常調査 【生産管理部】



日々のメーター確認で推移を記録している。漏水の発見に役立った。

#### ②漏水調査・修繕工事(2カ所) 【工務管理部・生産管理部】



1カ所目はメーター値の推移や雨水経路の流水から漏水と判断し調査を依頼。2カ所目は使用量増加と雨水樋の流水から漏水箇所を特定。業者の協力を得て迅速に対応したことで、ムダを最小限にできた。

#### ③環境経営活動の教育 【総務部】<環境事務局>



全体研修や新入社員導入教育で、環境活動の取り組みとして節水を推奨した。



### (6)過去の取り組み紹介

#### ★ベッセル洗浄機(試験室)



試験機器を機械で洗浄することで、少量の水で洗浄が可能となり、使用量削減につながった。

#### ★消音機(トイレ)



流水音発生器設置。25秒間音が流れ、節水が可能に。

#### ★水道ホース



使用後はホースを外し、蛇口から水が出ていないことを確認している。

#### ★水道蛇口



食堂の手洗い場所やトイレの蛇口をプッシュ型にすることで、止め忘れを防止している。



### (7)次年度の取り組み内容

使用量が増加した場合は、原因が調査できるよう引き続き日常と月間使用量を記録し、排水量との相関を注視していく。また、各部工程改善による作業期間や工程省略により、洗浄回数や時間短縮を検討していく。

## 9. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の内容 <5> (化学物質、技術提案、グリーン購入)

【数値目標】: ○数値達成、×数値未達成

【評価】: ◎実施し成果有り、○実施した、△検討した、×実施できなかった

(1)化学物質の管理(適正管理(継続))	評価	取組結果とその評価、次年度の取組計画
適正管理(環境逸脱0件)	◎	適正管理に取り組んだ。
①対象原料や試薬等の在庫管理		
・購入量、使用量、棚卸の定期的な確認	◎	定期的に確認を行った。
共通目標 ②危険物施設の定期点検		
・灯油	◎	保管庫の自主点検と、地下タンクの法定点検を実施した。
③使用量の確認(灯油・LPG・ガソリン)		
・日常及び月間使用量の把握	◎	設備異常や漏洩の早期発見、数量はPRTR法・省エネ法等の届出に役立てた。
④廃液・廃試薬の適正保管と廃棄		
・有機溶剤、廃油、廃酸等の定期的な廃棄	◎	試薬廃棄リスト改善で運用を簡略化した。年3回業者へ依頼した。

<取組紹介>

★廃液・廃試薬の適正保管と廃棄



既存の棚卸表活用や梱包方法の改定で、作業簡略化と作業時間短縮となった。



取組結果

点検記録等に廃棄数量を記入し、把握と管理を行った。廃液や廃試薬が一定量溜まると業者に廃棄回収を依頼した。2022年度は、昨年度より溜まる時期の予測や各部との連携を強め適宜業者回収ができた。

次年度の取組内容

目標であった廃棄リストの運用方法を検討・改善し、廃棄作業簡素化と作業の軽減となった。次年度は、複数業者との新規契約に向け準備し、BCP(事業継続計画)の観点からリスク回避に努める。

(2)技術提案	評価	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標(3件以上)	◎	8件の提案実施や検討を行った。
①給気温度設定変更による灯油使用量削減(製剤課)		
・10℃温度設定を低くした	◎	温度設定を検討し、原料費高騰でのコスト及びCO2削減につながった。
②包材廃棄削減と生産性向上(製造部・包装課) ★P.12のインタビュー参照		
・包材交換時と休憩時間を合わせた	◎	包装機械停止回数削減で、作業短縮と廃棄する包材削減となった。
③添付文書不要による機械改良と多能工化(製造部・包装課)		
・機械改良と作業の多能化	◎	添付文書減少による産廃削減と枚数照合不要による作業負担の軽減。
各部取組 ④外観検査省略による工程削減(製造部・製剤課)		
・過去の実績から検査工程を省略した	◎	品質に支障がない範囲で工程を抜き、作業や環境負荷軽減となった。
⑤サンプルの偏析方法改善(品質管理部・製造部)		
・サンプル採取方法を見直した	◎	偏析結果のバラつきをなくすため、採取方法を決めた。
⑥原料の保管方法改善(生産管理部)		
・遊休冷蔵庫や保管棚を有効活動した	◎	原料の品質低下を阻止し、試験結果の安定につなげた。
⑦在庫管理と原料・包材発注システムの改良(生産管理部)		
・在庫数の誤差と発注システムを改善した	◎	発注間違いや在庫数の無駄がなくなり、作業時間と廃棄物削減となった。
⑧リサイクルプラスチックの有償買取(生産管理部) ★P.12のインタビュー参照		
・プラスチックの一部を有償回収できた	◎	産廃として排出しないことで、年間約7万円のコストメリットとなる。

<取組紹介>

★サンプル採取のマニュアル化

【品質管理部・製造部】



サンプルをとる箇所などマニュアル化することで、人によるバラつきを少なくした。



取組結果

年間8件の技術提案があった。製造部では過去の実績を調査・検討し、工程省略や機械停止時間をずらすことで廃棄ロスや作業時間削減となった。品質管理部で品質の向上とトラブルを未然に防ぐなどの教育訓練を定期的に実施した。また、サンプル採取方法をマニュアル化し、他部門と連携することで試験結果の信ぴょう性向上となっている。生産管理部では、計画と在庫管理を連携するプログラムを作成して在庫管理の把握と発注量やタイミングをより正確にできるようになり、長期保管の廃棄ロスや作業負担が軽減した。

次年度の取組内容

2023年度も各部で独自の目標を設定している。製造部では収率改善による廃棄ロス削減、品質管理部ではエラー改善への提案や化学物質管理方法の改善、工務管理部では消防設備の更新などBCP(事業継続計画)の支援を行う。生産管理部では資材・包材管理方法の更なる改善による適正発注とロス削減を、総務部門では手順書・記録類の見直しや産業廃棄物の新規業者との取引契約に取り組んでいく。

★検査工程の簡素化

【製造部】



過去のデータから品質に問題がない範囲で検査工程を省略し、収率改善と作業時間短縮となった。



(3)グリーン購入	評価	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標(50%以上)	△	事務消耗品カタログ購入で、48%となり目標の50%は未達成となった。
共通目標 ①事務消耗品(たのめーる)のグリーン購入の推進		
・エコ対商品の推奨	○	購入時に対象商品を確認し、推奨を行った。
②事務消耗品購入の削減		
・部署を超えた消耗品の使い回し	◎	工場内で事務消耗品を使いまわし、購入数量や廃棄量削減に取り組んだ。

<取組紹介>

★エコ対商品の推奨



事務消耗品保管場所を決め、在庫量確認と使いまわしを推奨している。



取組結果とその評価

五條工場では事務消耗品を購入する際は、注文書にグリーン購入を推奨しチェック欄を設けている。クリアファイルやクリップ、社内便の封筒は部門をこえて工場内で使いまわされるよう保管場所を決めて不足分はそこから持ち出している。

次年度の取組内容

事務消耗品の使いまわしを活性化させるために、保管場所の周知を行う。また、購入前に在庫量が豊富にある物品は、購入を控えるようにする。

## 10. 緊急事態対応の試行・訓練

■実施日： 2022年11月10日(木)

■実施場所： 地下タンク、LPGタンク、ボイラー室、コンプレッサー室

■参加者： 10名(工場長、安全管理者、防火管理者、製造部1名、生産管理部5名、事務局1名)

(1) 緊急事態の想定：危険物漏洩事故の発生(灯油、アルコール、LPG)

■実施内容：

①危険物漏洩時対応訓練(灯油、アルコール)、②危険物漏洩時対応訓練(LPG)

■評価：

手順書の変更の必要性

あり なし

危険物漏洩時訓練で水道水を灯油やアルコールと見立て訓練を実施したことで、漏洩の広がりや速度を疑似体験した。訓練者は灯油やアルコール納入の立会者、設備日常点検者、危険物保安監督者など。

■実施状況の様子

①危険物漏洩時対応訓練(灯油地下タンク付近)



水道水を灯油と見立て、灯油注入口から約20リットル流し、漏洩時の灯油の流れを確認した。また、実際に吸収材や土嚢を使った訓練を実施した。

②LPG漏れ時対応訓練(LPG設備付近)



LPG(液化石油ガス)の特性などを説明。漏洩時の警報システムや緊急時の連絡先などを確認した。

(2) 緊急事態の想定：悪臭発生、騒音・振動発生

■実施内容：

①悪臭発生時対応訓練、②騒音・振動発生時対応訓練

■評価：

手順書の変更の必要性

あり なし

各訓練では手順に基づき、通報連絡手順や対象物の確認を行った。

■実施状況の様子

①悪臭発生時対応訓練(ボイラー室)



②騒音・振動発生時対応訓練(コンプレッサー室)



ボイラー室やコンプレッサー室前で、悪臭や振動・振動発生時の研修を実施した。通報の仕方や周辺住民への影響、社会的責任についても触れ、発生させないよう注意喚起も行った。

(3) 緊急事態の想定：消防訓練

■実施日： 2022年9月2日(金)

■実施場所： 工場屋内・構内

■参加者： 74名(五條工場従業員)

■実施内容：

地震による火災発生を想定した総合訓練(通報・避難誘導・安全対策・消火)を実施し、役割分担がどのようになっているかを認識させ、防災体制の強化及び従業員の消防に対する意識の高揚を図った。

■評価：

手順書の変更の必要性

あり なし

地震時を想定した退避行動の訓練や屋外消火栓を使った放水訓練を実施した。今回の訓練を今後の防火活動に活かしていきたい。

■実施状況の様子

①地震発生時訓練



地震発生を想定し、館内放送で安全な場所で待避するよう、通報・連絡した。

②屋外避難と各班役割確認



安全な経路で屋外に避難した。同時に、自衛消防隊の役割の確認も行った。

③放水訓練



消火班による屋外消火栓を使った放水訓練を実施。役割分担や放水角度・圧力などを体験した。

## 11. 環境委員へのインタビュー



西川委員  
(製造部包装課)

包材廃棄ロス削減は、どのような取り組みですか？

包材廃棄ロスとは製造時に錠剤などが入っていないシートが生成され廃棄されてしまうものです。調べていくと、機械がトラブルや休憩などで強制的に停止させる時とシートの継ぎ目が問題で一定量排出される時が多いと分かりました。機械の中は熱が数か所発生していて、止まるとそこで流れていたシートは悪い影響が出るために製品とならず廃棄します。その量を減らす方法はないかと考えました。



インタビュアー  
(事務局・小西)

工夫した点はありますか？



イメージ

包材廃棄ロスが出てしまうのは、いずれも品質上必要であり発生自体をなくすことはできません。そこで、発生の回数を減らすことに注目し、シートの交換時期と休憩時間を合わせることを試してみました。製品によりシートの長さや減るスピードが異なるため、それぞれの長さや継ぎ目までの時間などの表を作成しました。予測ができるようになりましたが、既定の休憩時間と大幅にずれないように合わせるのが難しいですね。



イメージ

削減効果は出ていますか？

改善の途中ではありますが、1ロットの効果としては機械停止回数が約3回分少なくなりました。それによる廃棄ロスが約32%削減、長さにする約30メートルです。また、機械の稼働時間が約11分増えたことで生産効率が向上しました。まだまだ改善の余地があるので、来年以降も引き続き取り組んでいきたいです。



森本委員  
(生産管理部)

プラスチックの有価回収について教えてください？

インタビュアー  
(事務局)

プラスチックの商品を取り扱っている業者さんから、プラスチックの回収についてお話がありました。五條工場から出るプラはリサイクル施設で処理後に固形燃料となります。今回は材料としてリサイクルされ、袋などの製品として再生できることに興味を持ち取り組み始めました。また、有価買取となるために廃棄費用が発生せず、環境経営面でも魅力があると感じました。



苦労した点と今後の目標について、お聞かせて下さい。

最初に、工場から出るプラスチックを約20種類集めてサンプルとし、業者さんと何度もやり取りした点が苦労しました。結果、全てのプラスチックを回収できるのではなく、材質や綺麗さなど特定されるため、数量は多くありません。しかし、半年で約0.5トンのプラスチック回収で、リサイクルプラ全体の約2%になります。再び製品として生まれ変わるので、より社会に貢献していると実感しています。綺麗なプラスチックへ分別する作業は手間と時間もかかります。来年は、分別する作業が軽減できるよう、各部署で協力してこの取り組みを継続していきたいと考えています。

## 12. 環境活動代表者による全体の評価と見直し・指示の結果

五條工場環境経営を実践すべく、省エネルギー・省資源活動に取り組みました。電力について、使用量は増加しましたが、デマンド監視システムを有効活用して夏季に食堂空調を一定時間停止するなどの工夫を行い、契約電力の超過を防ぎました。化石燃料では、製造工程に必要な灯油ボイラー設備を使用直前に稼働させる取り組みに加え、冬季の温度設定を適切に管理することでCO2排出量削減となりました。産業廃棄物では、包装機械停止回数を減らす取り組みで作業時間短縮となるだけでなく、停止時に出る端材量の削減も見込めるため、環境負荷削減とコスト削減を両立させる環境経営活動となりました。また、リサイクルプラスチックの一部を袋などのリサイクル商品へ再生可能な企業と連携し、再資源化を推進しています。水道水については、1年間で2カ所の地中配管からの漏水で使用量が大幅に増加しましたが、日々の推移調査や環境委員会での意見交換で最小限に食い止めることができましたと思います。

2023年度は昨年度の活動を継続するとともに、全社を挙げて改善提案を促し、エネルギー削減やコスト削減を意識した効率的な設備運転・管理を行うとともに、高騰する原料・包装資材のロス削減に取り組みます。また、社内目標として『バリュー15』を掲げ、従業員一人一人が15%以上の成果や改善を目指しており、それが環境経営にも反映されることを期待しています。

エコアクション21の認証・登録から17年目を迎えます。環境経営活動に取り組んできた文化を継承し、環境目標と経営目標を連動させ、引き続き「チームプレイ」で活動を推進していきます。

- ・環境経営方針  変更なし  変更あり( )
- ・環境経営目標・計画  変更なし  変更あり(水使用量削減目標は、2021年度を基準とする。)
- ・実施管理体制他  変更なし  変更あり( )

## 13. 環境経営活動の紹介（継続した活動）



### ★工場周辺清掃活動



6月

12月

五條工場がある工業団地で、各企業が分担し清掃活動を行い、年に2回(6月・12月)参加した。



### ★『緑の募金』活動



自動販売機で飲料水を購入すると売上金の一部が自動的に『緑の募金』に協力するシステム。

2009年の取り組み開始から2022年12月まで約1,316本植樹となり、約18.4tのCO2排出量削減となっている。



### ★事業継続力強化計画の認定



EA21の審査後に事業継続力の計画を作成し、全拠点で認定された。(2021年4月認定)



### ★ペットボトルキャップ回収運動



使用済みキャップを回収し、世界の子供達にワクチンを届ける活動を継続している。



### ★『なら女性活躍推進倶楽部』会員



女性が様々な組織において個性と能力を最大限に発揮することができ、組織も持続的に成長できるよう取り組んでいる。(2021年6月登録)



ホームページにも掲載しています。ご覧ください

田村薬品工業株式会社  
お知らせ | Webマガジン元氣！ラボ お問い合わせ  
私たちにについて ▾ 製品情報 ▾ 受託製造 ▾ 医療関係者の皆様 一般のお客様 ▾ 会社案内 ▾ 採用情報 ▾

COMPANY INFORMATION  
会社案内

会社案内TOP 会社概要 沿革 事業内容 CSR活動  
工場・拠点

## 環境保全活動

### エコアクション21

五條工場では2006年7月に取得後、環境関連法規の遵守はもとより環境保全に注力しており、認証登録の更新を続けております。

#### 主な活動

- ・CO2減少
- ・節水
- ・廃棄物の削減を通じた地域と地球の環境への配慮

 [環境経営レポート](#)

#### 活動に該当する主なSDGs項目



田村薬品工業株式会社

<https://www.tamura-p.co.jp>